

～人間性豊かな世界都市関西の実現に向けて～

「JAPAN MUSEUM（仮称）」の創設

1995年12月

社団法人 関西経済同友会
世界都市委員会

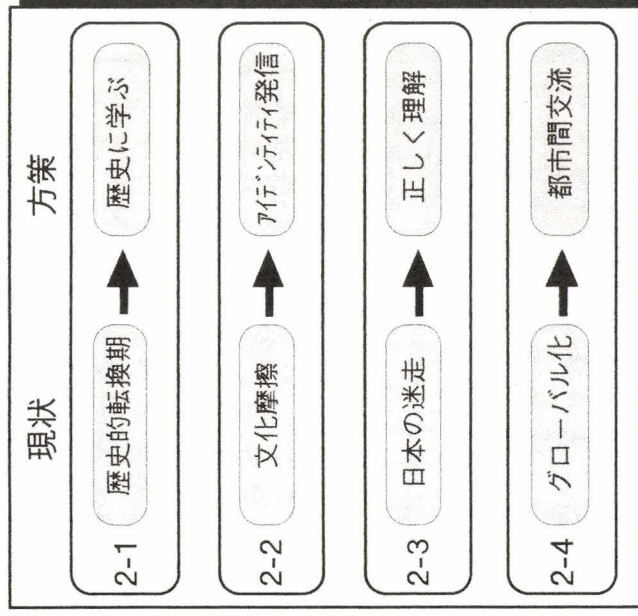
目 次

■ 要 約	 1
■ 提 言	
1 世界都市にふさわしい情報発信力の整備	 9
1-1 世界都市関西をめざして	
1-2 関西のポテンシャル	
2 歴史的転換期の課題克服に向けて	10
2-1 歴史の探求は時代の要請	
2-2 文化摩擦の解消を図る	
2-3 日本を正しく理解	
2-4 都市間交流の促進	
2-5 「JAPAN MUSEUM（仮称）」の創設	
2-6 「歴史と自然」に恵まれた関西から「日本」を発信	
2-7 戦略的に総力を挙げて取り組む	
3 テーマは「交流と都市の形成」	15
3-1 博物館の現状	
3-2 求められる「博物館の中の博物館」	
3-3 具体的なテーマは「交流と都市の形成」	
4 新世代の博物館「マルチ・ミュージアム」をつくる	20
4-1 マルチ・ミュージアムとは	
4-2 5つのコンセプト	
M : Media Mix	(多様な展示手段)
U : Universal Truth	(普遍的な情報発信)
L : Leading Research Institute	(世界的な研究機能)
T : Theme Park	(知的なテーマパーク)
I : Information Exhibition	(情報展示)
4-3 3つの機能 (N, E, O)	
5 「JAPAN MUSEUM」の具体的イメージ	23
5-1 交流：初めて出会う日本	
5-2 創造：未来に夢をもつ	
5-3 発信：日本を知る、世界を知る	
6 ミュージアムを核にした新しい都市づくり	28
6-1 人間性豊かな世界都市関西を目指して	
6-2 ミュージアムを核に都市づくりを	
■ 平成5・6・7年度 世界都市委員会活動状況	36
■ 平成7年度 世界都市委員会常任委員会名簿	40

1 章 [基本目標]

世界都市関西の実現

2 章 [日本の問題点の解決]



[世界都市]

- ・高い文化創造力
- ・価値ある情報を世界に発信
- ・[関西のポテンシヤル]

6 章

2-5 具体的に何を

JAPAN MUSEUM の創設

ミュージアムを核に

新しい都市づくり

- ・人間性豊かな世界都市関西を
- ・大阪パークアベニュー構想
- ・地下鉄中央線文化軸構想

2 章

どこに

2-6 関西から発信

だれが

2-7 日本の総力を挙げて

4 章

21世紀の新しい博物館像

マルチ・ミュージアム構想

- ・5つのコンセプト
M・U・L・T・I
- ・3つの機能
N・E・O

3 章 主要テーマ

- ・交流
- ・都市の形成

5 章 具体的イメージ

- ・交流
- ・創造
- ・発信

《 要 約 版 》

1 世界都市にふさわしい情報発信力の整備

1-1 世界都市関西をめざして

世界都市委員会は、平成5年度に、「都市問題委員会」と「文化と経済委員会」の2つの委員会が統合され設置されたものである。

これらの委員会においては、「まち衆共和国・関西」「関西の都市連合の形成」など、関西の発展に向けた提言を行い、その提言は関西の都市づくりに反映されている。

当委員会においては、こうしたこれまでの生活者の立場からの街づくりの提言を土台にして、「世界都市関西」の実現を目指す次のステップの具体的方策について検討を進めてきた。

世界都市とは、一言でいえば、世界の人々が集まってくる都市である。世界の人々にとって魅力がある都市というのは、「高い文化創造力を持ち、価値ある情報を世界に発信できる都市」であり、当委員会ではそれを世界都市の定義として考えている。

例えば、ニューヨーク、パリ、ロンドン是世界都市といわれているが、これらの都市は政治、経済、金融面での世界の中心というだけでなく、文化的な面においても世界の中核を占めている。

1-2 関西のポテンシャル

では、関西はどうであろうか。カナダ一國に匹敵する経済力をもち、人口の集積、交通網の整備、交流人口等の面からみても、世界都市としての一定の条件は具備していると考えられる。しかし、世界都市に必要な不可欠な文化的な魅力に関して、関西の都市を見ると、京都、神戸、奈良の文化的イメージは高いが、大阪は文化的魅力に大きく欠ける。

大阪の歴史を振り返ると、古代から近代に至る長い歴史を通じて、日本の政治、経済、文化の先進地であり、「なにわ大阪」の1350年間の歴史は、江戸東京をしのぎ、京都に匹敵するものである。そうした点からは、大阪が世界的な文化の情報発信基地であってもおかしくないが、現実には世界都市に不可欠な文化的魅力が欠けている。特に、戦後の大阪は、文化をないがしろにし、経済だけを優先した政策をとったため、大阪の都市としての魅力が失われ、文化的発展が阻害されたと思われる。

そこで、当委員会では、「世界都市関西」実現の最も重要な課題のひとつが、大阪の文化的な魅力の向上にあると認識し、新しい文化の創造とその魅力を高めていくために必要な方策について、ハード・ソフト両面から検討を行った。

世界一の気概で情報発信力整備を

世界都市関西の実現のためには、過去の反省を活かし、関西の人々自身が地道に文化を育てていく努力が大切であるとともに、世界都市にふさわしい情報発信力の整備を行い、都市の魅力を高めることが必要である。それも、世界一の情報発信を行う気概をもたないと、世界都市関西の実現は困難ではなかろうか。

2 歴史的転換期の課題克服に向けて

さて、どのような情報発信が求められているのか、日本と世界に視野を広げ考察する。

2-1 歴史の探求は時代の要請

今、世界も日本も大きな時代の転換期を迎えている。日本は、従来の欧米へのキャッチアップを前提とした経済至上主義や無秩序に巨大化した都市のあり方を含め、あらゆる分野で変革が求められている。特に求められていることは、世界のフロントランナーとしての役割であり、未来への創造力である。未来への創造力の種子は、過去から現在まで綿々と続いてきた歴史の中にある。21世紀の発展のためには、過去幾度となく転換期を乗り越えてきた先人の英知を歴史に学び、それを踏まえて新しい文化を創造し、21世紀にふさわしい文明を構築することが必要である。

2-2 文化摩擦の解消を図る

大競争時代を迎え、世界各国との経済摩擦がさらに深刻さを増している。これは、海外の人から「不可解な国、日本」といわれるように、文化摩擦が根底にあると思われる。経済摩擦解消のためには、文化の違いを乗り越えた相互理解が必要となる。それには、まず日本とは何か、日本の文化とは何か、日本の文明はどのような構造になっているかを世界に発信する装置、仕掛けの整備が急務である。

2-3 日本を正しく理解

日本は世界の経済大国になったものの、次なる目標を見失い迷走しているかに見える。これは日本人自身が日本の実像を正しく理解していないからと思われる。海外の人々に、日本を理解してもらうためには、当然、日本人自身が日本の歴史、文化を正しく理解し、誇りをもつ必要がある。

2-4 都市間交流の促進

21世紀に向け人びとの活動はグローバル化し、国家という枠組みより、むしろ、都市間・地域間における直接交流と互いの競争にウエイトが移りつつある。今後は、「都市」という枠組みで文化や文明を考えることが重要な時代であり、人類の発展に都市の果たす役割がますます重要になってくる。文化や文明の個性を発揮するのが都市である。そのため、新しいビジョンを次々と作り出し、新しいライフスタイルを創造していくリーダーシップを発揮し、都市間交流を盛んにすることが今後の都市経営に求められている。

2-5 「JAPAN MUSEUM (仮)」の創設

以上のような日本が直面している問題を解決していくためには、日本のアイデンティティを情報発信するソフト、歴史に学び新しい文化や文明を創造していくソフト、都市間の交流を盛んにするソフトが必要で、そういうソフトの巨大な集積をもつ文化装置の創設に向けて動き始めることが重要である。

そこで、

歴史に学び新しい都市文明を構築し、日本のアイデンティティを情報発信するための文化装置として、「JAPAN MUSEUM『日本文明博物館』(仮)」の創設を提言する。

2-6 「歴史と自然」に恵まれた関西から「日本」を発信

この「JAPAN MUSEUM」の立地に適した所は、生きた歴史都市であり、日本文化のルーツである関西において他にはないと考えられる。関西は、日本でも比類なき歴史文化遺産の集積地であるとともに、豊かな自然環境との共生の中で多彩な文化を創造し継承している地域である。しかも、今回、APECが関西で開催されたように世界の期待も大きい。

そして、この「JAPAN MUSEUM」こそ、(第1章で述べた)世界都市関西の必要としている情報発信力整備の具体策のひとつである。

2-7 戦略的に総力を挙げて取り組む

「JAPAN MUSEUM」は日本の文化や文明を広く世界に対して正しく理解してもらうという重要な役割を果たす。その重要性に鑑みると、将来に向けた戦略的な文化政策のひとつとして、パリの都市計画のように、日本の総力を挙げて積極的に取り組むことが望ましい。

「国立民族学博物館」を民族学の殿堂、「国立国会図書館関西館」を情報の殿堂、「総合芸術センター(構想)」を芸術の殿堂、それに加えて、「JAPAN MUSEUM」を都市文明の殿堂と位置づけ、世界的な知識創造拠点として、総合的に整備していくと、より大きな効果が期待できる。

3	テーマは「交流と都市の形成」
---	----------------

近年、博物館の開設が相次いでいる。その数は日本全国で約4000館で、なかでも歴史系の博物館の数は6割近くを占めているが、他の系統の博物館に比較し入館者数は少ない。これらの博物館の多くは、テーマを、ある時代、ある地域、ある学問に限定しており、総合的に日本の全体像を発信できる博物館はまだない。

日本の歴史に学び、新しい都市文明を構築するには、現代的課題のテーマで、歴史の断面を串刺しにし総括的にとらえることが重要である。そして、その成果をアミューズメント性をもたせて楽しくわかりやすく情報発信する、そういう博物館が求められている。言い換えれば、歴史をテーマとした全ての博物館をネットワークできる「博物館の中の博物館」ともいうべき総合的な博物館が求められている。それを可能にする先端技術も開発されつつある。

日本の歴史を振り返ると、異文化との「交流」により創造力が育まれている。交流の歴史を探れば、どのようにして独自の文化を形成し、それぞれの時代の都市を発展させていったか、日本の個性と普遍性を浮き彫りにでき、日本の全体像の発信ができる。

日本が現在抱えている問題の多くは都市問題に収斂される。現在、地球上の人口の約半数は都市に住んでおり、日本の場合、それは7割を超える。今後、21世紀に向け、都市への人口集中の傾向は世界的にますます顕著となり、時代に対応した人間と都市との関係の究明は重要な課題となる。「交流と都市の形成」に焦点をあて、歴史に学ぶことは、都市文明の将来への指針につながる。

4 新世代の博物館「マルチ・ミュージアム」をつくる

4-1 マルチ・ミュージアムとは

「JAPAN MUSEUM」の創設にあたっては、21世紀の新しい博物館像である「マルチ・ミュージアム (Multi Museum)」の概念を提唱する。この「マルチ (Multi)」は新しい博物館の「5つのコンセプト」の頭文字である。また、「マルチ」という言葉には、多数の博物館を回った時と同じ情報体験ができるという意味、さらには、多才な人材を擁する博物館、あるいはイベントや国際会議機能など多機能をもつ博物館の意味も含んでいる。

4-2 5つのコンセプト (M・U・L・T・I)

M : Media Mix (多様な展示手段)

マルチ・ミュージアムでは、レプリカ、コンピューターグラフィック、バーチャル・リアリティ等、多様な展示手段を駆使しダイナミックに表現することにより、来館者が五感で体感できる。本物以上に本物らしさを表現できるため、従来の博物館と違い、高価な宝物の収集費用を軽減することもできる。

U : Universal Truth (普遍的な情報発信)

21世紀の博物館に求められる運営コンセプトは世界との共生であり、日本人だけでなく世界の人々が理解できる普遍的な真理を探求し、世界に情報発信する。

L : Leading Research Institute (世界的な研究機能)

これからの博物館は、ルーブル博物館や大英博物館のように多くの研究者が常駐し、世界的な研究機能をもつことが重要である。世界から才能ある人材が集まる「開かれた研究の場」であり、新しい研究成果を次々と情報発信し、その成果を蓄積し、常に成長し進化していく博物館である。

T : Theme Park (知的なテーマパーク)

これまでの博物館が面白くないのは、陳腐化した展示手法やお役所的な運営方法に原因があり、テーマパークのように民間の経営の発想を導入することが望まれる。マルチ・ミュージアムは、有能なプロデューサーが空間全体のアミューズメント性を演出し、展示にストーリーを持たせ、人々の知的好奇心を満足させるなど、教育にエンターテインメントの要素を加えた「知的テーマパーク」ともいえるべき博物館である。

I : Information Exhibition (情報展示)

これまでの「モノの展示」では、「モノ」が創作された時代背景や思想、社会に及ぼした影響などがわからず、現代的な課題に答えることができない。これからは、思想や概念、イメージという「情報の展示」が求められており、マルチ・ミュージアムは最新の技術を最大限に活用し、そのような知的欲求に答える博物館である。

4-3 3つの機能 (N, E, O)

機能面では次の3つの特徴がある。

①N : Network (ネットワーク)、②E : Editing (編集)、③O : Open System (オープンシステム) であるが、ネットワークすることにより既存の博物館の活性化も図れる。

マルチ・ミュージアムの概念で「JAPAN MUSEUM」をつくると次のような具体的イメージになる。

5-1 交流：初めて出会う日本

この「JAPAN MUSEUM」は、「都市」を展示している。「都市の変遷」がわかり「都市の全体像」が把握でき、都市を切り口に日本の文化や文明が理解できる。さらに、関西国際空港へ降りたった世界の人びとに、「初めて出会う日本」を印象づけるため、日本の歴史について楽しくわかりやすい紹介機能を持つ。京都など日本の歴史都市が情報化されており、「奈良や飛鳥を訪れてみたい」「平安文化に直接触れたい」「大阪や東京の戦後復興のプロセスがよくわかった」と最初に感じることができる。

5-2 創造：未来に夢をもつ

このミュージアムは、世界的レベルの学際的な研究機能をもつところに特徴がある。世界中から才能を持つ研究者を集めた都市文明の殿堂ともいえる所であり、都市の「未来のあるべき姿」についても提言し、その研究結果をソフトの展示物として蓄積する、夢のある発展性のあるミュージアムである。そして、都市のあり方に関する国際シンポジウムは、このミュージアム内で開催される。

5-3 発信：日本を知る、世界を知る

もちろん、世界的な研究機能をもつと同時に、一般の人にも十分楽しめる工夫をする。展示物を自由に触ることができる、人間を主役としたミュージアムである。しかもマルチメディア時代に対応し、コンピューターグラフィック等、最新の技術を駆使して、歴史上の疑似体験ができる等、日本の歴史を理解するための多様な展示機能を持つものである。

例えば、「甦れ平安京展」のようなコンピューターグラフィックにより、紫香楽宮、難波宮など日本のすべての都が見れる。ディズニーランドのカリブの海賊やスターツアーズのように、楽しみながら歴史の世界に浸れる「知的なテーマパーク」である。また、世界の都市の情報がインターネットを介して即座に集まり、3次元映像で現われ、世界の都市を知ることができる。

6-1 人間性豊かな世界都市関西を目指して

これまでの国際交流は、東京、ロンドン、ニューヨークといった一国を代表する都市を中心に、その都市を介して進められていた。アジア太平洋時代といわれる21世紀には、新しい国際交流ネットワークの核となる世界都市が求められている。関西を世界都市に発展させるためには、従来の世界都市機能の模倣ではない、新しい時代に対応した機能を創造していくことが重要である。

21世紀に向け、関西に望まれていることは、豊かな自然と歴史という関西のアイデンティティをもとに、人々の創造性を育み、世界の経済・文化の発展に貢献していく人間性豊かなエリアとなることである。

なかでも文化イメージの向上を必要とする大阪に「JAPAN MUSEUM」を創設するならば、

関西の中心部に文化のコアが確立でき、世界都市にふさわしい文化的魅力を持つ人間性豊かな街に変身させることができる。大阪の文化イメージが向上すれば世界都市関西の実現は大きく前進することになる。

6-2 ミュージアムを核に都市づくりを

関西経済同友会がこれまで提言してきた「魅力ある都市づくり」のプランに、このミュージアムを魅力の核として位置づけると、幾つかの考え方を提案できる。

ミュージアムの立地についてはアクセスの利便性が重要な条件になる。アクセス条件から、大阪の都心立地をケースとした2つの構想について考え方を述べる。

●大阪パークアベニュー構想

「JAPAN MUSEUM」の建設にあたっては、その周囲のみを整備するのではなく、防災面も含めて、この施設を中核に全体構想を練り、未利用地の再開発計画をもう一度再検討し、極力オープンスペースを確保し、緑化・公園化を進め、アメニティ豊かな安全で美しい街にしていく必要がある。

例えば、大阪中心部一帯の既存の文化施設や計画中の文化施設を面的にネットワーク化し、緑豊かな「文化の遊歩道」を整備すると、数字の「21」になぞらえた「大阪パークアベニュー構想」が実現できる。それにより、都市の輪郭がはっきりと見え、人々の記憶に残る景観形成ができる。緑豊かな文化の遊歩道は「防災の回廊」にもなり、安全で安心な街づくりに貢献できる。都市の魅力の核として、文化の遊歩道の結節点となる場所に、この新しいミュージアムを建設すれば、セーヌ河畔のように世界の人々が一度は歩いてみたいと憧れるような都市づくりができる。

しかし、現状は、国、府、市が別々に再開発計画を推進している。国と自治体が一体となった総合的な世界都市プランが望まれる。

●地下鉄中央線文化軸構想

将来的に拡張できる広大な敷地、交通アクセスの利便性、様々な文化施設との相乗効果が期待できる立地として、地下鉄中央線沿線も考えられる。

これまで、大阪は、御堂筋をはじめ、地下鉄、道路とも南北方向の交通網が優先的に整備・強化されてきたが、今後は東西軸を整備し、人の流動を活発化していくことが課題である。地下鉄中央線をテーマパーク施設の集積する文化軸としてとらえ、大阪城公園から海遊館、サントリーミュージアム、ATC、WTCへとつながるライン上にこのミュージアムを建設し、今後もこのエリアへ多彩な文化装置の集積を図っていけば、東西交通軸の強化ができる。将来、この文化軸を関西文化学術研究都市へと大きくつなぎ、広域文化軸として発展させることも考えられる。

終わりに

今回の提言は「世界都市関西」実現のためのひとつの具体的な手段であり、戦略的構想の段階、スタート段階のものである。今後この提言を契機に、関係する分野の多数の専門家の方々に議論いただき、より深度化を図っていく必要がある。

来るべき新時代に向け、長期的、世界的な視点に立ったこのような戦略的な取り組みが求められている。産業、経済の集積はもとより、豊富な歴史的文化的蓄積をもつ関西への期待は大きく、その役割は重大であると考えられる。

提 言

～人間性豊かな世界都市関西の実現に向けて～

「JAPAN MUSEUM（仮称）」の創設

1	世界都市にふさわしい情報発信力の整備
---	--------------------

1－1 世界都市関西をめざして

世界都市委員会は、平成5年度に、「都市問題委員会」と「文化と経済委員会」の2つの委員会が統合され設置されたものである。

これらの委員会においては、「まち衆共和国・関西」「関西の都市連合の形成」など、関西の発展に向けた提言を行い、その提言は関西の都市づくりに反映されている。

当委員会においては、こうしたこれまでの生活者の立場からの街づくりの提言を土台にして、「世界都市関西」の実現を目指す次のステップの具体的方策について検討を進めてきた。

世界都市とは、一言でいえば、世界の人々が集まってくる都市である。世界の人々にとって魅力がある都市というのは、「**高い文化創造力を持ち、価値ある情報を世界に発信できる都市**」であり、当委員会ではそれを**世界都市の定義**として考えている。

例えば、ニューヨーク、パリ、ロンドン是世界都市といわれているが、これらの都市は政治、経済、金融面での世界の中心というだけでなく、文化的な面においても世界の中樞を占めている。

1－2 関西のポテンシャル

では、関西はどうであろうか。カナダ一国に匹敵する経済力をもち、人口の集積、交通網の整備、交流人口等の面からみても、世界都市としての一定の条件は具備していると考えられる。しかし、かつて、ドイツの都市学者ウォルフ・シュナイダーが、「規模の大小にかかわらず世界的に認知されている芸術や文化を有している都市」を世界都市と定義したように、世界都市には文化的な魅力が不可欠である。その点に関して、関西の都市を見ると、京都、神戸、奈良の文化的イメージは高いが、大阪は文化的魅力に大きく欠ける。

大阪の歴史を振り返ると、古代から近代に至る長い歴史を通じて、日本の政治、経済、文化の先進地であり、「なにわ大阪」の1350年間の歴史は、江戸東京をしのぎ、京都に匹敵するものである。そうした点からは、大阪が世界的な文化の情報発信基地であってもおかしくないが、現実には、世界都市に不可欠な文化的魅力が欠けている。特に、戦後の大阪は、文化をないがしろにし、経

済だけを優先した政策をとったため、大阪の都市としての魅力が失われ、文化的発展が阻害されたと思われる。

そこで、当委員会では、「世界都市関西」実現の最も重要な課題のひとつは大阪の文化的な魅力の向上にあると認識し、新しい文化の創造とその魅力を高めていくために必要な方策について、ハード・ソフト両面から検討を行った。

世界一の気概で情報発信力整備を

世界都市関西の実現のためには、過去の反省を活かし、関西の人々自身が地道に文化を育てていく努力が大切であるとともに、**世界都市にふさわしい情報発信力の整備**を行い、都市の魅力を高めることが必要である。それも、世界一の情報発信を行う気概をもたないと、世界都市関西の実現は困難ではなかろうか。

2

歴史的転換期の課題克服に向けて

さて、どのような情報発信が求められているのか、日本と世界に視野を広げ考察する。

2－1 歴史の探求は時代の要請

今、世界は大きな時代の転換期を迎えている。東西冷戦は終結したものの世界平和の到来には程遠く、新しい国際秩序を模索し混迷が続いている。

日本も歴史的な一大転換期を迎えている。押し寄せる世界経済のボーダレス化の荒波、世界一の貿易黒字に対する経済摩擦、少子高齢化の急速な進行、モノの豊かさから心の豊かさへと向かう人々の価値観の変化など、日本をとりまく様々な環境が大きく変化しており、従来の欧米へのキャッチアップを前提とした経済至上主義や無秩序に巨大化した都市のあり方を含め、あらゆる分野で変革が必要とされている。

そして、今の日本に、特に求められていることは、世界のフロントランナーとしての役割であり、未来への創造力である。未来への創造力の種子は、過去から現在まで綿々と続いてきた歴史の中にある。変革期においては経営論で信長、秀吉、家康といった歴史上の人物に光が当てられるように、歴史をひもとき、歴史に学ぶことが大切である。

○歴史的転換期

将来社会へのキーワード

- ・ 大競争時代
- ・ 地球環境時代
- ・ 脱工業化社会（知識社会）
- ・ 経済の成熟化と価値観の多様化
- ・ 少子高齢社会

○価値観の変化

1990年	→	2010年
キャッチアップ		フロンランナー
量的追求		質的追求
効率重視		ゆとり重視
モノの豊かさ		心の豊かさ
横並び・総花的		個性・選択
マーケットイン		バリューオリエンティッド
結果の平等		機会の平等
競争優位		共存共栄

文化とは、各民族の後天的、社会的に習得された生活の仕方を指し、人間精神の内面に宿る価値の体系によって担われたものとみなされる。

文明は、人間の保持する道具、機械、施設並びにそれを運用するための制度、すなわち人間をとりまく有形無形の人工物の全てを指している。装置群と制度群を含む生活システムのことだともいえる。

『日本とは何か』（梅棹忠夫）より

21世紀の発展のためには、過去、幾度となく転換期を乗り越えてきた先人の英知に学び、それを踏まえて、新しい文化を創造し21世紀にふさわしい文明を構築することが必要である。

2-2 文化摩擦の解消を図る

大競争時代を迎え、世界各国との経済摩擦がさらに深刻さを増している。これは、海外の人から、「不可解な国、日本」「ブラックホール、日本」といわれるように、日本という国、あるいは日本の文化が非常に理解しがたいために生じる文化摩擦が根底にあるものと思われる。

それゆえ、日本と世界各国との経済摩擦は相当根深いものがあるが、今後、日本が世界各国と良好な関係を築くためには、文化の違いを乗り越えた相互理解が必要となる。それには、まず日本とは何か、日本の文化とは何か、日本の文明はどのような構造になっているかを世界に発信する装置、仕掛けの整備が急務である。

2-3 日本を正しく理解

日本は世界の経済大国になったものの、そこに生活する人々は豊かさの手応えを実感できないでいる。古き良き伝統を見失い、過去の全面否定、社会性の喪失、行き過ぎた自分主義という風潮も目立ち始めている。サリン事件をはじめ、いつ何が起きても不思議ではない混沌とした状況の中で、日本は次なる目標を見失い迷走しているかに見える。

これは、日本に現代日本文明の諸相を歴史的に俯瞰してみるという習慣がないために、日本人自身が日本の実像を正しく理解していないからと思われる。

海外の人々に、日本を理解してもらうためには、当然、日本人自身が日本の歴史、文化を正しく理解し、誇りをもつ必要がある。

2-4 都市間交流の促進

東西冷戦の終焉により軍事的脅威が消滅し、「国家」という垣根の重要度は低下しつつある。旧社会主義国の市場経済への参入、東アジア諸国の経済的勃興により、世界経済のグローバル化がますます加速化しており、人々の活動は「国家」という枠組みより、むしろ、「都市間」「地域間」における直接交流と互いの競争にウエイトが移りつつある。

今後はイデオロギーや国家という重しがはずれ、「都市」という枠組みで文

化や文明を考えることが重要な時代であり、人類の発展に都市の果たす役割がますます重要になってくる。文化や文明の個性を発揮するのが都市である。そのため、新しい都市のビジョンを次々と作り出し、新しいライフスタイルを創造していく、そういうリーダーシップを発揮し、都市間交流を盛んにすることが、今後の都市経営に求められている。

2-5 「JAPAN MUSEUM(仮)」の創設

以上のような日本が直面している問題を解決していくためには、日本のアイデンティティを情報発信するソフト、歴史に学び新しい文化や文明を創造していくソフト、都市間の交流を盛んにするソフトが必要で、そういうソフトの巨大な集積をもつ文化装置の創設に向けて動き始めることが重要である。

そこで、

歴史に学び新しい都市文明を構築し、日本のアイデンティティを情報発信するための文化装置として、「『JAPAN MUSEUM』『日本文明博物館』(仮)」の創設を提言する。

2-6 「歴史と自然」に恵まれた関西から「日本」を発信

この新しいミュージアムの立地に適した所は、生きた歴史都市であり、日本文化のルーツである関西において他にはないと考えられる。

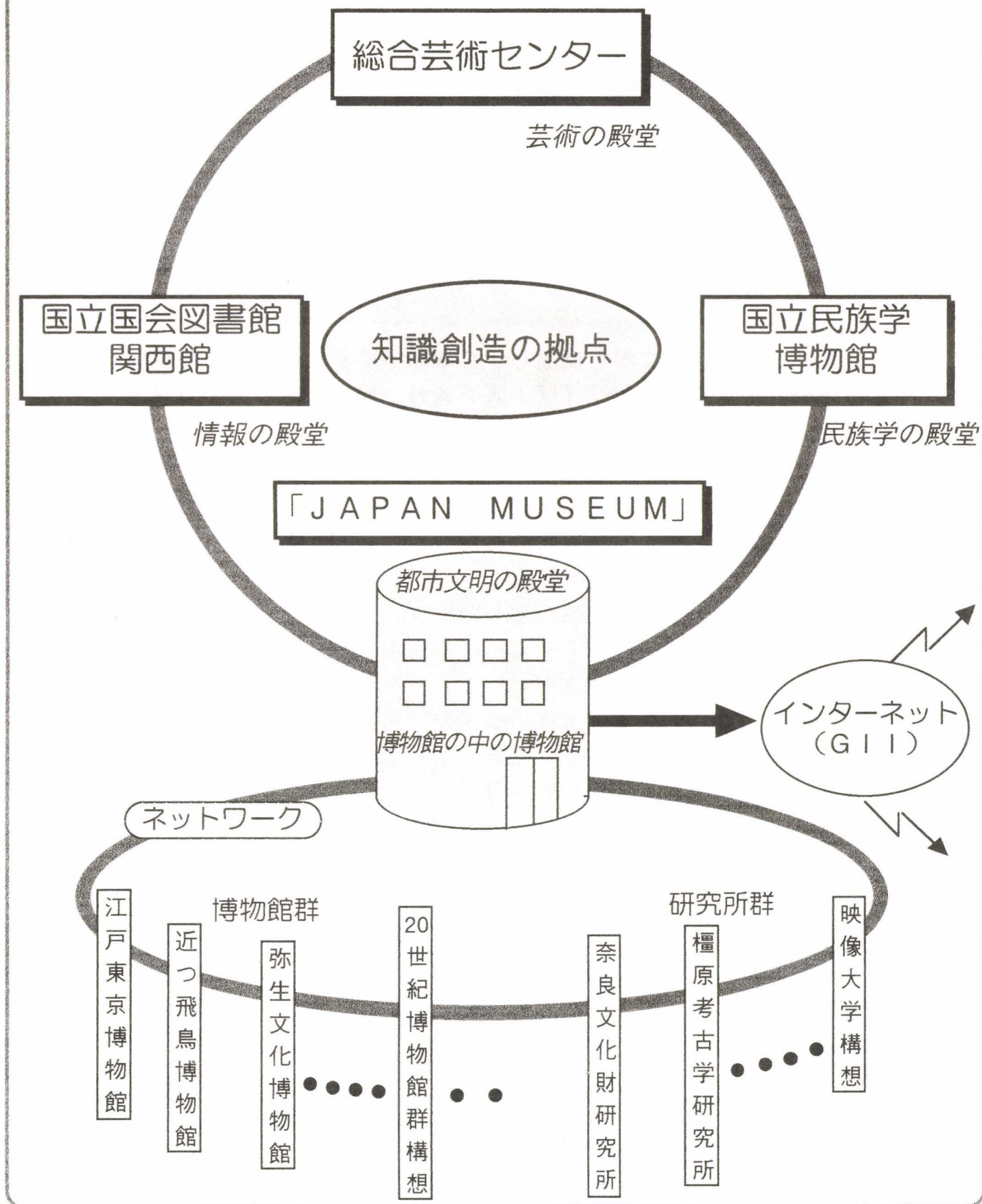
関西は、国宝の58%、重要文化財の49%、史蹟名勝・天然記念物の27%を有する日本でも比類なき歴史文化遺産の集積地であるとともに、豊かな自然環境との共生の中で多彩な文化を創造し継承している地域である。千年の歴史をもつ都で育まれた洗練された生活文化、華道、茶道、芸能などの芸術文化、流通経済の中心として栄えた近世から培われ発揮されてきた起業家精神が、今も脈々と受け継がれている。

関西は、人口と海外からの訪問客数の面で首都圏に次ぐ大都市圏であるが、国際会議開催回数は関西全体で首都圏を大きく上回り、海外の認知度も高い。しかも、今回、APECが関西で開催されたように世界の期待も大きい。さらに、関西は、これからのグローバル化時代において、極めて重要な鍵を握る国際ハブ空港を擁している。

そして、この「JAPAN MUSEUM」こそ、第1章で述べた、世界都市関西の必要としている情報発信力整備の具体策のひとつである。

文化プロジェクトイメージ図

新しい文化創造と世界的な情報発信



2-7 戦略的に総力を挙げて取り組む

「JAPAN MUSEUM」は、日本の文化や文明を、広く世界に対して正しく理解してもらおうという重要な役割を果たす。その重要性に鑑みると、将来に向けた戦略的な文化政策のひとつとして、パリの都市計画のように、日本の総力を挙げて積極的に取り組むことが望ましい。

「国立民族学博物館」を民族学の殿堂、「国立国会図書館関西館」を情報の殿堂、「総合芸術センター（構想）」を芸術の殿堂、それに加えて、「JAPAN MUSEUM」を都市文明の殿堂と位置づけ、世界的な知識創造拠点として総合的に整備していくと、より大きな効果が期待できる。

そして、これらを核にして、世界の人々から愛される日本、新しい文化を創造し世界に情報発信する関西を実現していくことが望まれる。

3	テーマは「交流と都市の形成」
---	----------------

3-1 博物館の現状

近年、博物館の開設が相次いでいる。その数は、日本全国で約4000館で、なかでも歴史系の博物館の数は6割近くを占めているが、他の系統の博物館に比較し入館者数は少ない。これらの博物館の多くは、テーマを、ある時代やある地域、ある学問に限定しており、総合的に日本の全体像を発信できる博物館はまだない。

3-2 求められる「博物館の中の博物館」

日本の歴史に学び、新しい都市文明を構築するという観点からは、ミクロな視点でものごとをとらえるのではなく、梅棹忠夫氏の「文明の生態史観」のように日本の歴史を俯瞰してみることが重要である。つまり、現代的課題のテーマで、歴史の断面を串刺しにし、総括的に日本の歴史を俯瞰するのである。そして、そのテーマについて、学際的に様々な角度から研究活動を行い、その成果をアミューズメント性をもたせて楽しくわかりやすく情報発信する、そういう博物館が求められている。

言い換えれば、日本の全体像をつかむため、歴史をテーマとした全ての博物

館をネットワークできる「博物館の中の博物館」ともいうべき総合的な博物館が求められている。それを可能にする先端技術も開発されつつある。

3-3 具体的なテーマは「交流と都市の形成」

次にどのようなテーマを選ぶか、その点が重要である。今、日本に求められているのは、豊かな文化を背景とする先見性と未来への創造力である。日本の歴史を振り返ると、異文化との「交流」の刺激により創造力が育まれている。

「交流」の歴史を探れば、どのようにして独自の文化を形成しそれぞれの時代の都市を発展させていったのか、日本の個性と普遍性を浮き彫りにできる。

そして、その新しい文化や文明が現われてくる舞台が「都市」であり、「都市の形成」をテーマにすることにより、日本の全体像を歴史的にとらえることができる。

日本が現在抱えている問題の多くは都市問題に収斂される。現在、地球上の人口の約半分は都市に住んでおり、日本の場合、それは7割を超える。今後、21世紀に向け、都市への人口集中の傾向は世界的にますます顕著となり、時代に対応した人間と都市との関係の究明は重要な課題となる。「交流と都市の形成」に焦点をあて歴史に学ぶことは、都市文明の将来への指針につながる。

かつて、幸田露伴は「一国の首都」の中で、世界的視野に立って十分な検討を加えた一国の首都を建設すべきことを強調した。そして、中国の都城制度から説きおこし、日本人の無計画ななりゆきまかせの都市膨張に歯止めをかけるべきと説き、近代科学の粋を首都建設に最大限に活用するポイントは江戸時代にみられた民政の重視にあると力説している。

今日、日本は露伴の時代と同じように第三の開国を求められている。歴史的な転換期を迎え、新しい国土づくり、新しい地域発展のビジョンづくりが緊急の課題となっている。露伴のように先人の英知を掘り起こすことは重要なことである。

図1 博物館施設数の推移

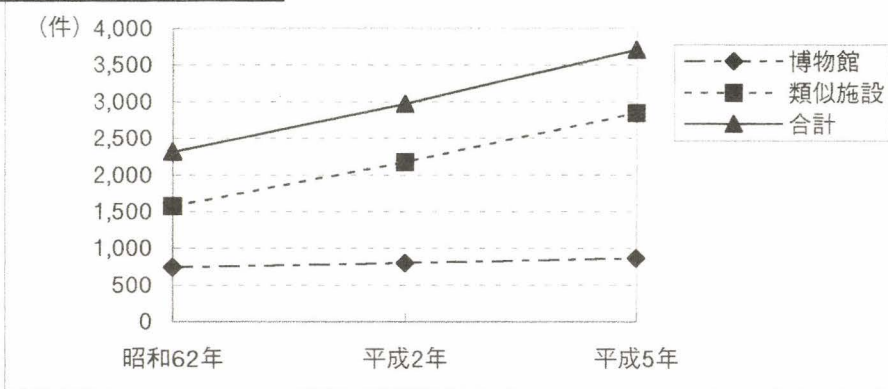


図2 種類別博物館数

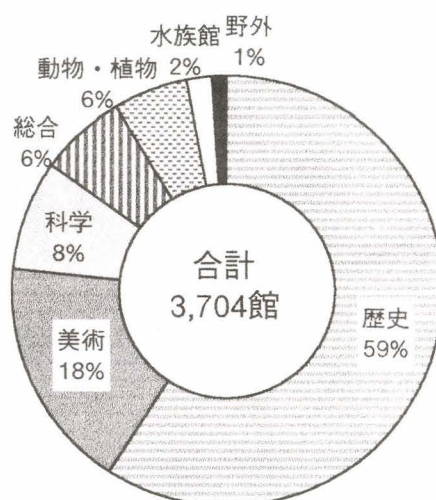
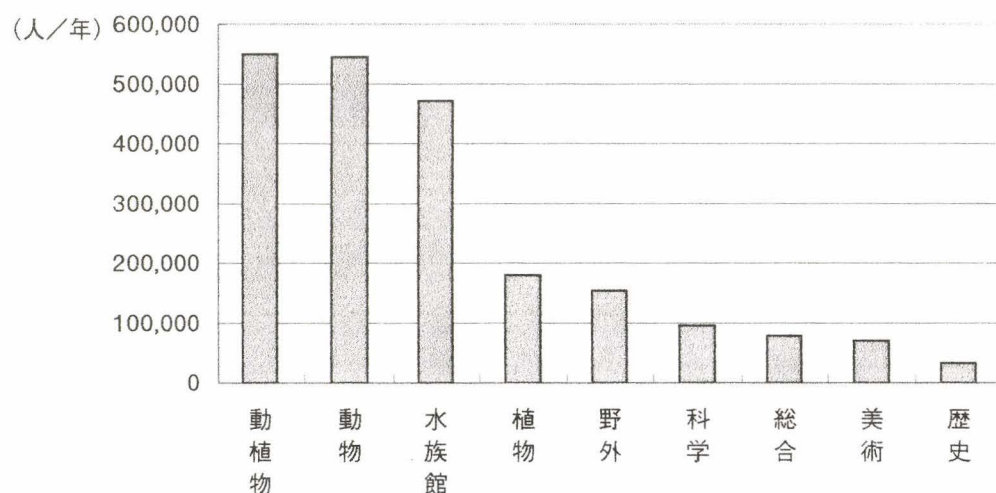
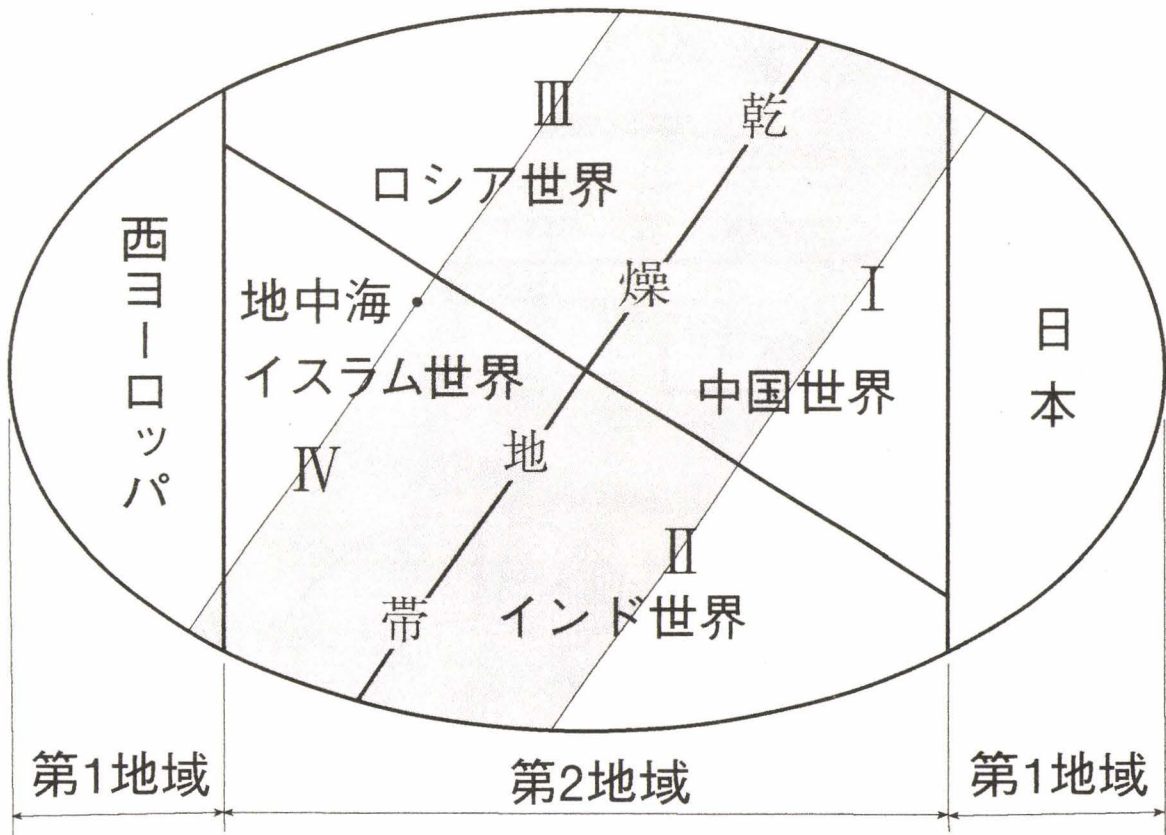


図3 種類別博物館入場者数



文部省『社会教育調査報告書』平成5年度版より作成

旧世界の生態学的構造（梅棹忠夫氏による）



■ 全旧世界は2つのカテゴリーに分けることができる

- ・ 第1地域……西ヨーロッパ・日本＝比較的平穏な辺境の地域
- ・ 第2地域……その間に挟まれた全大陸＝破壊と暴力の繰り返された地域

I：中国世界

II：インド世界

III：ロシア世界

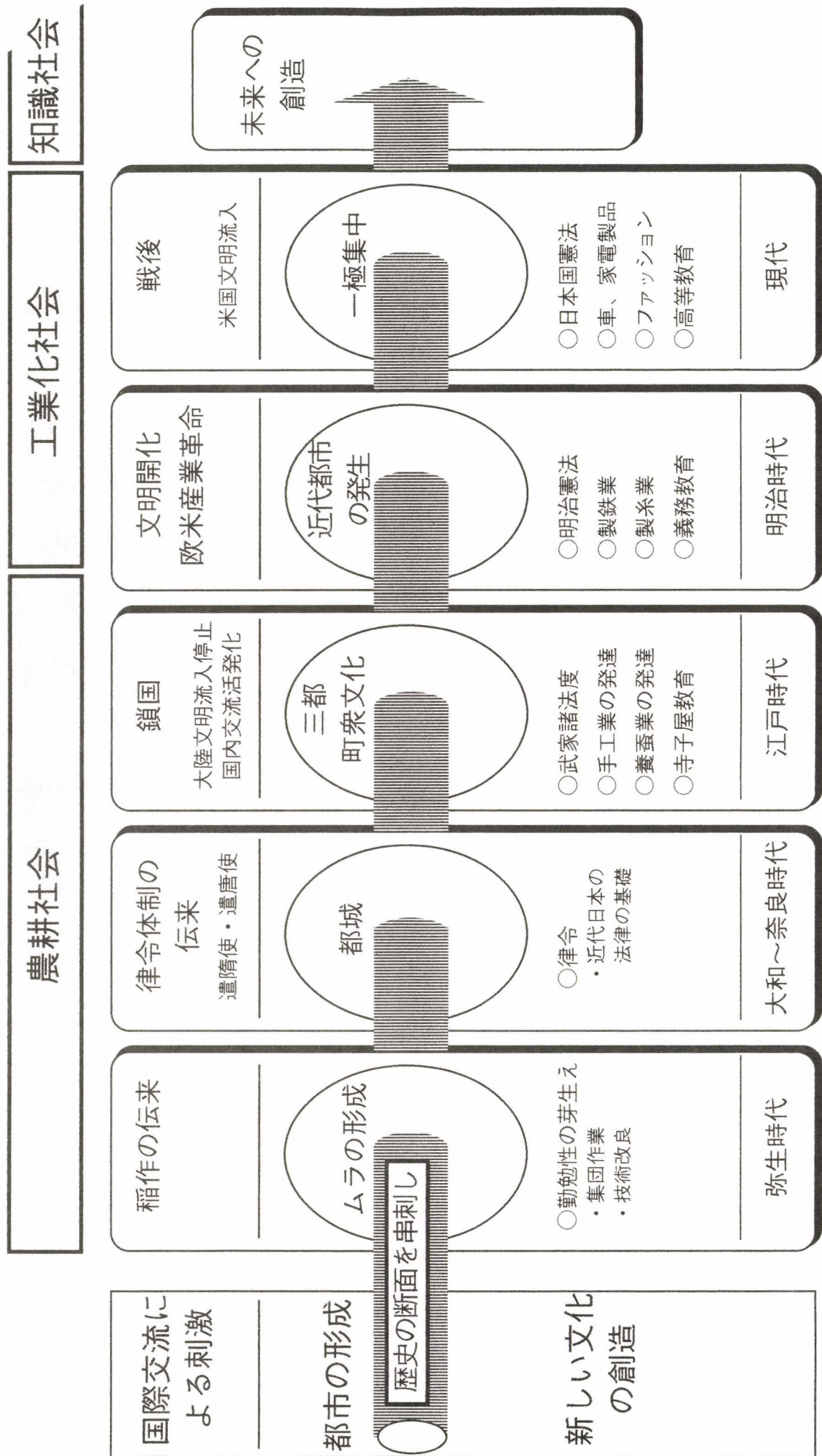
IV：地中海・イスラム世界

- ・ 古代文明発祥の地
- ・ 専制君主の巨大帝国を形成
- ・ 西欧型の封建制をつくり出せず近代化されなかった

■ 西ヨーロッパと日本は平行進化

- ・ 今日の日本文明の発達があるのは、明治以降西洋文明の模倣に努めたからではない。
- ・ 18世紀末から19世紀はじめに、日本は近代社会への様々な胎動が見られた。土地開発は進み、各地に手工業的工場群があらわれ、交通通信ネットワークは完備し、教育も普及していた。
- ・ 西欧と日本はよく似た地理的条件、歴史的条件のなかで平行進化しており、独自路線によっても日本の近代化は進行したはず。

主な歴史断面における「交流と都市の形成」



4-1 マルチ・ミュージアムとは

「JAPAN MUSEUM」の創設にあたっては、21世紀の新しい博物館像である「マルチ・ミュージアム (Multi Museum)」の概念を提唱する。

「マルチ (Multi)」という言葉は、新しい博物館の「5つのコンセプト」の頭文字である。直訳ではないが、日本語を対比すると以下ようになる。

Multi Museum

—	M : Media Mix	(多様な展示手段)
—	U : Universal Truth	(普遍的な情報発信)
—	L : Leading Research Institute	(世界的な研究機能)
—	T : Theme Park	(知的なテーマパーク)
—	I : Information Exhibition	(情報展示)

また、「マルチ」という言葉には、多数の博物館を回った時と同じ情報体験ができるという意味が込められている。さらに、多才な人材を擁する博物館、あるいは博物館機能以外にイベントや国際会議機能など多機能をもつ博物館の意味も含んでいる。

4-2 5つのコンセプト

○ Media Mix (多様な展示手段)

宝物や貴重な資料の収集も重要であるが、「マルチ・ミュージアム」では、レプリカ、コンピューターグラフィック、バーチャル・リアリティ等、多様な展示手段を駆使し組合せることによって、来館者がプレゼンテーションの内容を五感で体感し楽しく理解できる展示を目指す。

これまでの「宝物展示」型の博物館では、中心に据える「宝物」購入に多額の費用を要し、一点豪華主義的な展示になりがちであったが、「マルチ・ミュージアム」では、最新の技術の導入により、コストダウンと同時に本物以上に本物らしさを感じさせる展示が可能となる。

○ Universal Truth （普遍的な情報発信）

日本の博物館活動は、貴重な宝物の保存を中心にした第1世代の活動から様々な資料公開を中心に運営してきた第2世代、そして住民参加、市民参加を軸とした第3世代の活動に分類される。

次の第4世代の博物館に求められる運営コンセプトは世界との共生である。21世紀の博物館は、日本人だけでなく世界の人々が理解できる普遍的な真理を探求し、世界に情報発信する必要がある。

○ Leading Research Institute （世界的な研究機能）

日本の現在の博物館は学芸員の量と質の問題を抱えている。これからの博物館は、パリのルーブル博物館やロンドンの大英博物館のように、多くの研究者が常駐し、新しい研究成果を次々と情報発信できる世界的な研究機能をもたなければならない。「マルチ・ミュージアム」は、世界から才能ある人材が集まる「開かれた研究の場」とすると同時に、現代的な課題について議論する「先進的な場」となる博物館である。

また、研究成果から新しい展示物・情報を自分たちで作り出し、常に成長し進化する文化創造型の博物館である。

○ Theme Park （知的なテーマパーク）

なぜ、これまでの博物館は面白くないのか。テーマパークと比較してみると陳腐化した展示手法やお役所的な運営方法にその原因があると思われる。新しい博物館には民間の経営の発想を導入することが望まれる。

素晴らしい脚本と素晴らしい役者がいても、良い演出家がいないと良い映画ができないのと同様に、壮麗な建物に貴重な宝物を展示しても、それだけでは人々が何度も訪れたいような魅力ある博物館にはならない。

「マルチ・ミュージアム」は、ディズニーランドのように有能なプロデューサーが空間全体のアミューズメント性を演出し、展示にストーリーを持たせ、人々の知的好奇心を満足させる博物館である。教育にエンターテインメントの要素を加えた、いわば「知的テーマパーク」ともいうべき博物館である。

○ Information Exhibition （情報展示）

これからの博物館の重要な使命は、現代的な問題、今日的な課題に答えることである。しかし、これまでの宝物を拝観させる「モノの展示」では、「モノ」が創作された時代背景や思想、その「モノ」が社会に及ぼした影響などがわからず、現代的な課題に答えることができない。

これからは思想や概念、イメージという「情報の展示」が求められており、

マルチ・メディア等、最新の技術を最大限に活用し、人々の知的欲求に答えていける博物館でなければならない。

4-3 3つの機能（N，E，O）

「マルチ・ミュージアム」は、5つのコンセプトに加えて、次の3つの機能の特徴にしている。

それは、①N：ネットワーク、②E：編集、③O：オープンシステムの3点であり、マルチ・ミュージアムは、その頭文字NEOを組み合わせ「ネオ・ミュージアム」と呼ばれる正に新しい博物館像である。

- ① N : Network (ネットワーク)
- ② E : Editing (編集)
- ③ O : Open System (オープンシステム)

① N : Network (ネットワーク)

「マルチ・ミュージアム」は、ネットワーク機能をもつ。全国に点在している既存の博物館を情報ハイウェイでつなぎ、必ずしも有効に活用されていない個々の博物館にある情報を受信、集積、加工し、新たに創造した情報を発信する。例えば、ある事柄について知りたいという時に、「マルチ・ミュージアム」にあるコンピューターを検索すれば、必要な情報を得ることができる。さらに詳しく調べたいと思えば、どこの博物館がよいか教えてくれる。こうしたネットワーク効果により、既存の博物館の来館者も増えるなど、活性化が期待できる。

② E : Editing (編集)

悠久の歴史を示す人類の文化遺産も、素材のままの提供より、入手した資料や情報を理解しやすく編集し、面白く演出することが重要である。特に「博物館の中の博物館」として、ネットワークの中核の機能を果たす「マルチ・ミュージアム」は、個々の博物館で表現できない総合的なテーマについて、他の博物館から送られてくる断片的な情報をいかに編集し、いかに理解しやすくプレゼンテーションするかが、その重要な使命、役割となる。編集なくして面白さは演出できない。

③ O : Open System (オープンシステム)

人びとの知的好奇心は創造的刺激を受けることにより様々に広がっていく。

今、積極的に課題を探求し議論に参加していく人びとが増えている。「マルチ・ミュージアム」では、知的情報を研究者だけが独占せず、人びとに開かれたものとする。研究者と来館者が討論できる場、意見交換できる場が館内に設置されている。コンピューターをオープンシステムにし、来館者の作品が画面に現れてくるような参加型・双方向型の仕掛けを用意する。

5	「JAPAN MUSEUM」の具体的イメージ
---	------------------------

このマルチ・ミュージアムの概念を、新しくつくる「JAPAN MUSEUM」に導入すると次のような具体的イメージになる。

5－1 交流：初めて出会う日本

この「JAPAN MUSEUM」は「都市」を展示している。「都市の変遷」をダイナミックに表現し、「都市の全体像」が把握でき、都市を切り口に日本の文化や文明が理解できる。さらに、このミュージアムは、関西国際空港へ降りたった世界の人々に、「初めて出会う日本」を印象づけるため日本の文化、歴史について楽しくわかりやすい紹介機能を持っている。世界の人々が訪れ、自由に交流し刺激しあえる場がこのミュージアムであり、京都をはじめとする日本の生きた歴史都市が情報化されている。それにより、「飛鳥の地を訪れてみたい」「平安文化に直接触れたい」「東京や大阪の戦後復興のプロセスがよくわかった」と最初に感じることができる。

5－2 創造：未来に夢をもつ

このミュージアムは、都市文明の殿堂として、世界的レベルの学際的な研究機能をもつところに特徴がある。知的創造活動を重視し、世界中から才能を持つ研究者を集めた所である。ただ単に、過去の遺産を大事に陳列する従来型の博物館とは違い、国立民族学博物館のように多数の研究者が常駐し、日本の文化や文明について、歴史と関係づけながら研究を行う。そして、過去についての研究成果を出していくだけでなく、省資源リサイクル都市の実現など、都市の「未来のあるべき姿」についても提言し、その研究成果をソフトの展示物として蓄積していく、夢のある発展性のあるミュージアムである。そして、都市のあり方に関する国際シンポジウムは、このミュージアム内で開催される。

5-3 発信：日本を知る、世界を知る

もちろん、世界的な研究機能をもつとはいえ、一般の人にも十分楽しめる工夫をする。展示物を自由に触ることができる人間参加型の、人間を主役とした博物館である。しかもマルチメディア時代に対応し、コンピューターグラフィック等、最新の技術を駆使して、歴史上の擬似体験ができる等、日本の歴史を理解するための多様な展示機能を持つものである。

例えば、平安建都1200年記念事業の1つとして好評を博した「甦れ平安京展」のように、CG（コンピューターグラフィック）と非常に精緻な模型を組み合わせ、紫香楽宮、難波宮など日本の全ての都を一堂に集めるなど、人々を圧倒する情報を蓄積している。

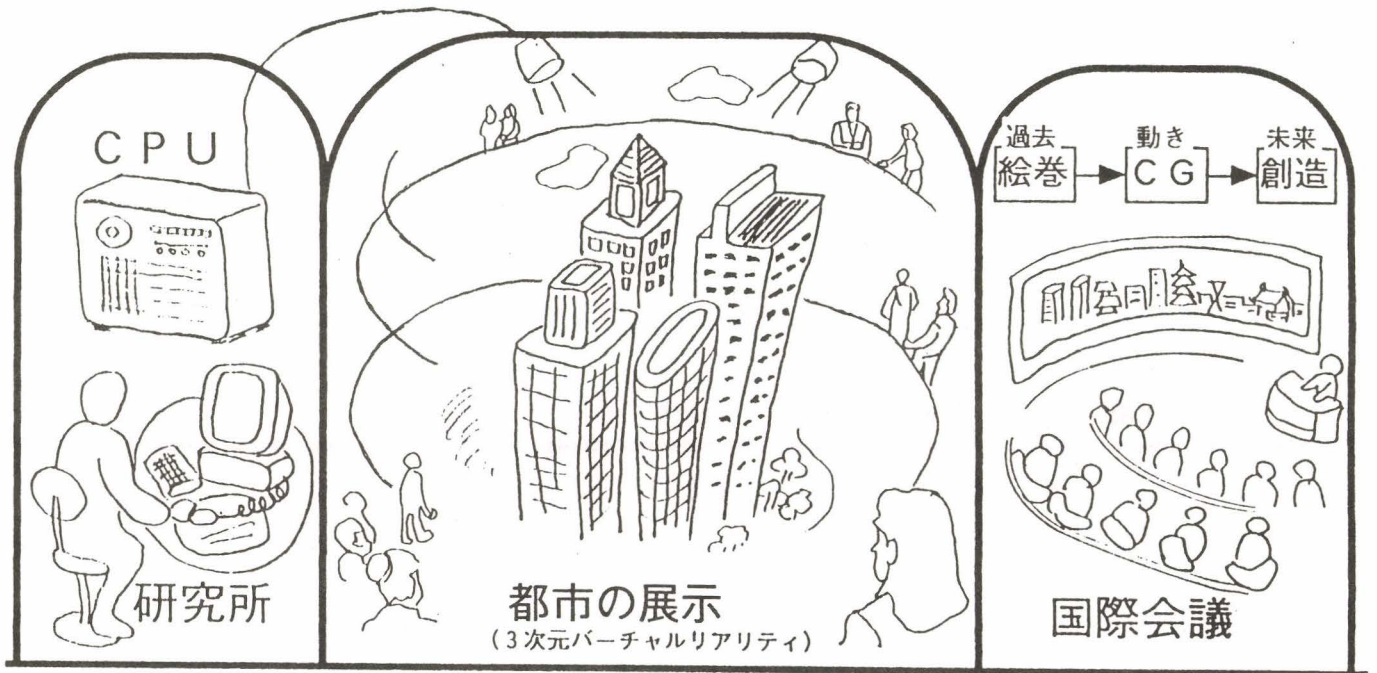
「知的なテーマパーク」であり、ディズニーランドのカリブの海賊やスターツアーズのように、楽しみながら歴史の世界に浸れる。

また、世界の都市の情報がインターネットを介して即座に集まり、3次元映像（次世代のアイマックスシアター）で現れる。さらに、古代から現代に至る「世界都市」の特別展が開催され、世界の都市を知ることができる。

JAPAN MUSEUM のイメージ

仮想国際コンペ応募作A

ぼくらは、子供から大人まで楽しめるソフト重視のテーマパークを作る。
「都市」を展示し都市の変遷や未来のあるべき姿をダイナミックに表現。



- ・21世紀の技術だと巨大な3次元映像が蜃気楼のようにあらわれる。
- ・そのまわりを海遊館のように上から下へ見て回れるんだ
- ・模型と違って動きが出せるから四季の変化も百年単位の変化も見れる
- ・ソフトで作るからコストダウンできるし、内容を自由自在に変えられる

- ・子供が楽しめるように、映像の都市の中をタイムマシンで冒険に出るんだ
- ・歴史学の先生だけでなく映画の専門家がいて、上手に演出するんだ
- ・ディズニーランドの客は減るよ
- ・50年かけて順次完成する大作なんだ



「過去から未来へ」～都市の創造的展示の例～

[文化摩擦解消課題例1]

◎日本の都市の「住」環境に対する素朴な疑問に答える

◇欧米人の実感として、「ウサギ小屋論」は一般的

◇高いGDPと低い住環境の矛盾

●過去● 「日本の木造都市の歴史」

・欧米の石造都市と木造都市との対比

①中国の都城制は取り入れたが、木造都市ならではの柔軟性とダイナミズムをあわせもつ

◇CGによって実際の都市の成長過程を時間の変遷によって再現

◇大火と都市再建の繰り返しによる都市の成長、進化→大火とその後の都市再建の流れを再現

◇戦火と風水害による都市の崩壊と再生を表現

②江戸、大坂といった都市は、資源エネルギーの循環をうまく実施

◇水と木と火の都市、エコ循環都市→当時のメカニズムを再現し、今後のあり方を考察

●現代● 「日本の住宅の実態」 (戦後から現在まで)

・日本の産業重視の経済政策と欧米のストック重視の経済政策との対比

①戦災復興は、バラック住宅による都市の仮住まい

◇仮設のバラック住宅型の都市の再生は、伝統的な日本都市再生の考えによるもの

◇欧米のようなハードな都市計画の考え方が定着せず

②日本の経済政策

◇住宅、都市よりも生産の回復、産業成長に投資を重点的に配分

◇ドイツが市民のために住宅ストックの整備を重視したのとは対照的

③都市への投資、地方への投資の比較

◇社会資本投資が都市より地方に偏る傾向が、現在も続く

→この地方偏重分を都市に配分していたらどうなっていたかを映像で表現

●未来● 「21世紀における日本の住宅のあり方」

(1) 夢がもてる都市への投資政策、都市における住宅政策のあり方、内需振興のあり方をCGや模型で表現

(2) 人口集中、超過密のアジアの巨大都市に対する、日本からの提案

①日本的な都市計画、都市づくりの経験の紹介

・アジアの人口集中都市における問題点の指摘

・日本的な都市づくりの経験をアドバイス

・江戸、浪速のエコ循環都市の経験の紹介

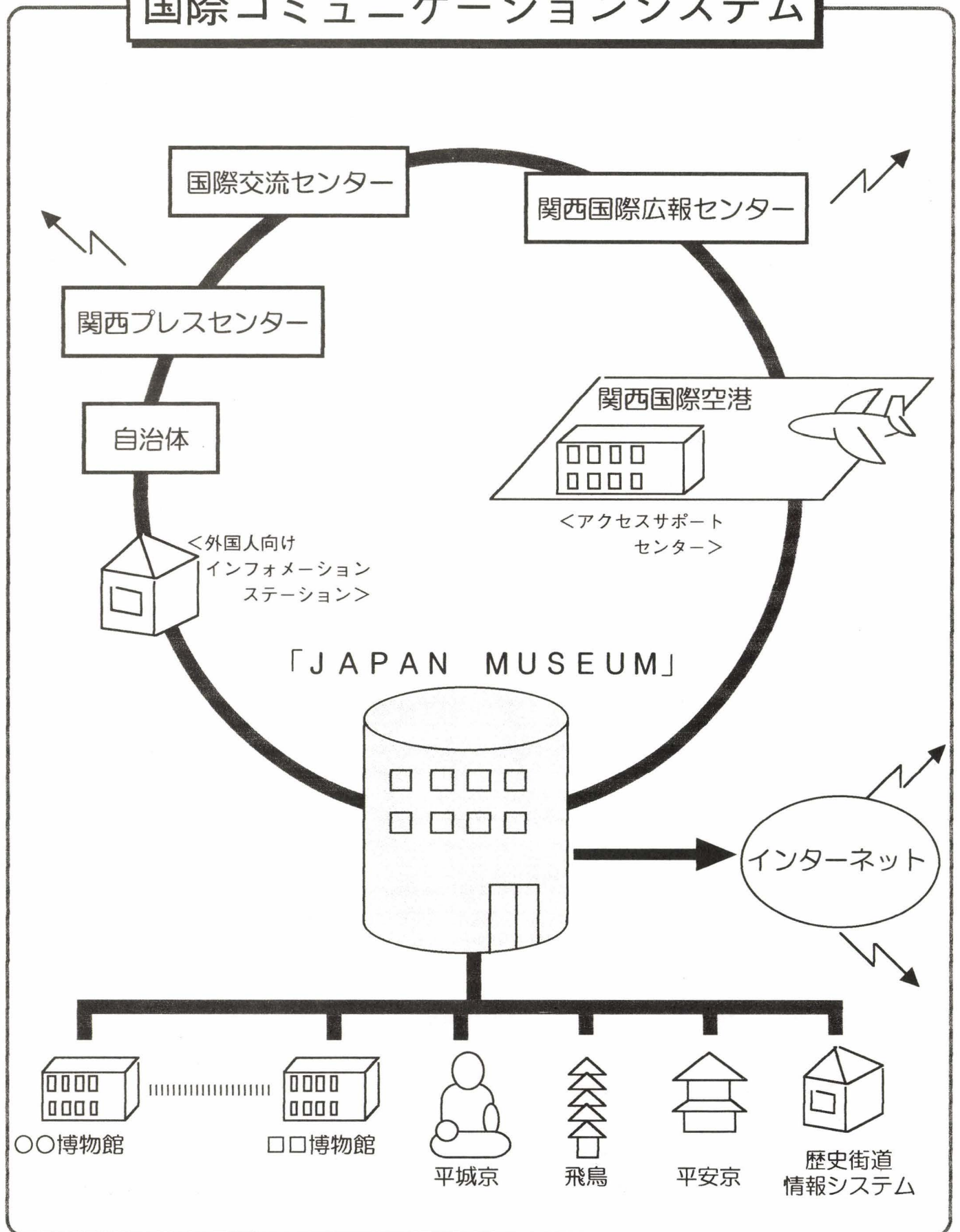
・欧米流のハードなからをもった都市の限界

②新進気鋭の建築家によるモデル都市像の提案

→既存の都市(例えばバンコク)をとりあげて、日本的改良、改善の提案を行う

ミュージアムを核とした

国際コミュニケーションシステム



6-1 人間性豊かな世界都市関西を目指して

これまでの国際交流は、東京、ロンドン、ニューヨークといった一国を代表する都市を中心に、その都市を介して進められていた。大競争時代が始まり、今、新しい都市間交流が活発化しつつある。アジア太平洋時代といわれる21世紀には、新しい国際交流ネットワークの核となる世界都市が求められている。

このような時代にあって、関西が世界都市を目指すには、従来の世界都市機能の模倣ではなく、新しい時代に対応した機能を創造していくことが重要である。

21世紀に向け関西に望まれていることは、豊かな自然と歴史という関西のアイデンティティをもとに、自然と人間の共生を基本とし、ゆとり、豊かさ、潤いのある快適な環境をつくり、人々の創造性を育み、世界の経済・文化の発展に貢献していく人間性豊かなエリアとなることである。

なかでも文化イメージの向上を必要としている大阪に、「JAPAN MUSEUM」を創設するならば、関西の中心部に文化のコアが確立でき、世界都市にふさわしい文化的魅力を持つ人間性豊かな街に変身させることができる。大阪の文化イメージが向上すれば、世界都市関西の実現は大きく前進することになる。

6-2 ミュージアムを核に都市づくりを

関西経済同友会がこれまで提言してきた「魅力ある都市づくり」のプランにこのミュージアムを魅力の核として位置づけると、幾つかの考え方を提言できる。

ミュージアムの立地については、アクセスの利便性が重要な条件になる。アクセス条件からは、関西の中でも、海外からの玄関口である関西国際空港を抱え、新幹線、高速道路といった国内交通アクセスの要衝となっている大阪に建設するのが妥当であろう。しかも、大阪の中でも都心部に立地するのが、人の流動の面からより効果的である。

大阪の都心立地をケースとした2つの構想について考え方を述べる。

●大阪パークアベニュー構想

「JAPAN MUSEUM」の建設にあたっては、その周囲のみを整備するのではなく、防災面も含めて、この施設を中核に全体構想を練り、未利用地の再開発計画をもう一度再検討し、極力オープンスペースを確保し緑化・公園化を進め、

アメニティ豊かな安全で美しい街にしていく必要がある。

例えば、大阪中心部一帯の既存の文化施設や計画中の文化施設を面的にネットワーク化し、緑豊かな「文化の遊歩道」を整備すると、数字の「21」になぞらえた「大阪パークアベニュー構想」が実現できる。それにより、都市の輪郭がはっきりと見え、人々の記憶に残る景観形成ができる。そして、この緑豊かな文化の遊歩道は「防災の回廊」にもなり、安全で安心な街づくりに貢献できる。

都市の魅力の核として、文化の遊歩道の結節点となる場所にこの新しいミュージアムを建設すれば、セーヌ河畔のように日本に住む人々だけでなく世界の人々が一度は歩いてみたいと憧れるような都市づくりができる。

しかし、現状は、国、府、市が別々に再開発計画を推進している。国と自治体が一体となった総合的な世界都市プランが望まれる。

建設候補地として、3ha規模の博物館であれば、大阪大学病院跡地のような地域が考えられ、舞台芸術総合センター（構想）など周辺の文化施設との相乗効果が期待できる。また、技術的、経済的に可能であれば、中之島公園の地下に新しいミュージアムを建設すると、地上は緑あふれる公園、地下は世界的なミュージアムとなり、ゆとりとアメニティのあふれる文化創造拠点ができる。あるいは、広大な梅田貨物ヤード（移転予定）を活用すれば、防災機能などマルチ機能をもつ大規模なミュージアムをつくることができる。そして、様々な文化施設が集積してゆく中之島地区の東西の交通アクセスが改善されれば、大阪の文化の顔として、このエリアの発展が期待できる。

●地下鉄中央線文化軸構想

将来的に拡張できる広大な敷地、交通アクセスの利便性、様々な文化施設との相乗効果が期待できる立地として、地下鉄中央線沿線も考えられる。

これまで、大阪は、御堂筋をはじめ、地下鉄、道路とも南北方向の交通網が優先的に整備・強化されてきたが、今後は東西軸を整備し、人の流動を活発化していくことが課題である。

そこで、例えば、地下鉄中央線をテーマパーク施設の集積する文化軸としてとらえ、大阪城公園から海遊館、サントリーミュージアム、ATC、WTCへとつながるライン上にこのミュージアムを建設し、今後もこのエリアへ多彩な文化装置の集積を図っていけば、東西交通軸の強化ができる。将来、この文化軸を関西文化学術研究都市へと大きくつなぎ、広域文化軸として発展させることも考えられる。

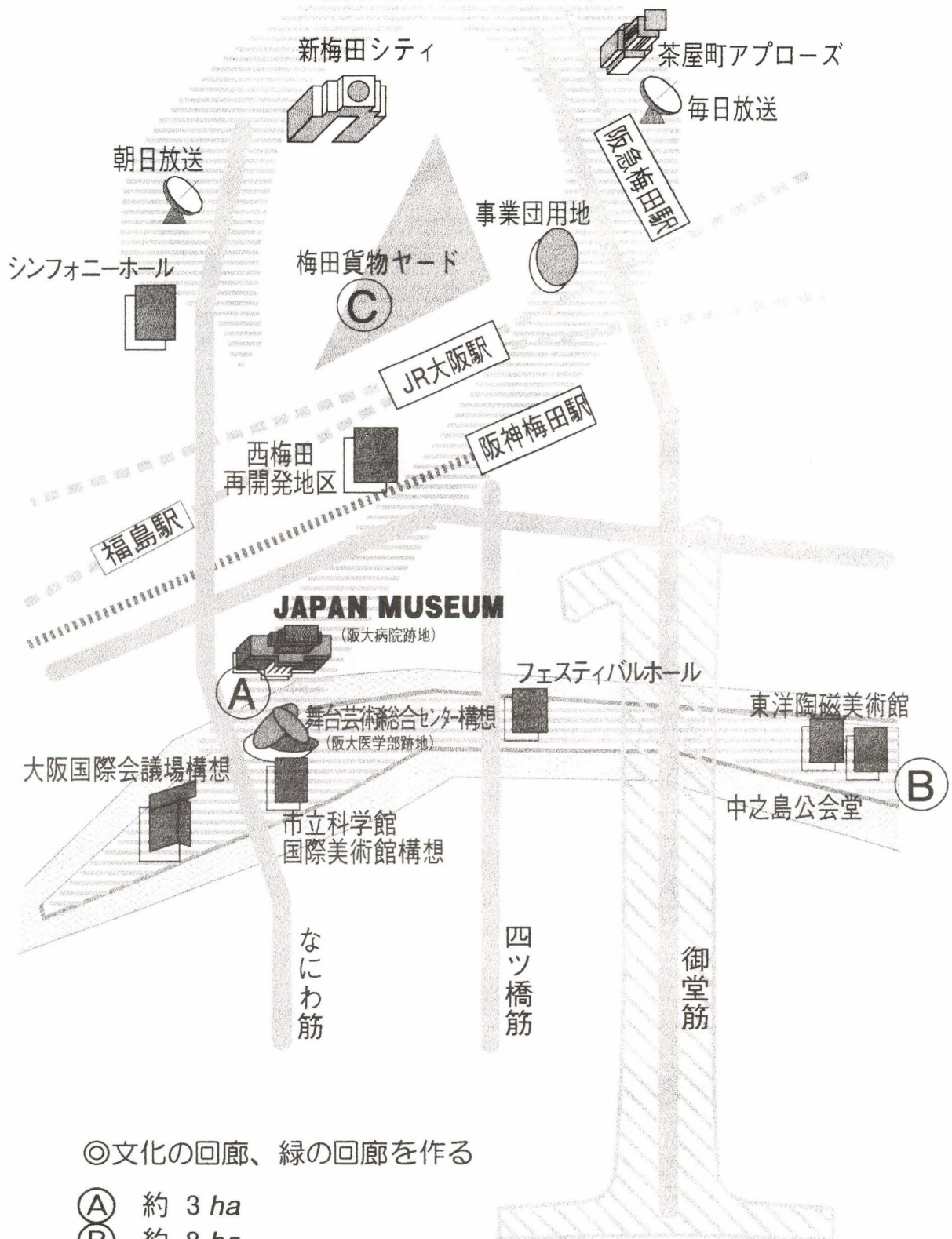
終わりに

今回の提言は「世界都市関西」実現のためのひとつの具体的な手段である。近年、関西文化学術研究都市をはじめとした様々な文化プロジェクトの推進により、関西には文化の花が開きつつある。こうした流れを、さらに加速させるためにも「JAPAN MUSEUM」の創設に向けて動きだす必要がある。

「JAPAN MUSEUM」の役割は、歴史に学び新しい都市文明を構築し、日本のアイデンティティを発信することであり、世界的な視野に立った志の高い構想であると考えている。現段階は戦略的な構想の段階であり、スタート段階のものである。今後、この提言を契機に、関係する分野の多数の専門家の方々に議論いただき、より深度化を図っていく必要がある。

西洋近代文明の時代であった20世紀が間もなく終わりに近づき、アジア太平洋時代ともいうべき21世紀がまさに明けようとしている。来るべき新時代に向け、長期的、世界的な視点に立ったこのような戦略的な取り組みが求められている。産業、経済の集積はもとより、豊富な歴史的、文化的蓄積をもつ関西への期待は大きく、その役割は重大である。

大阪パークアベニュー 21



博物館・テーマパークの施設規模

施設名	敷地面積 [延床面積]	建設費	年間運営費	年間入館者数 その他
江戸東京博物館 1993. 3. 28開館	3 h a [5 h a]	5 9 0 億円 (資料収集費含む)	6 6 億円	開館1年間: 270万人 入場料収入: 10億円
国立民族学博物館 1977. 11. 17開館	4 h a [4. 5 h a]	1 2 0 億円	3 0 億円	平成6年度: 23万人
国立歴史民俗博物館 1983. 3. 16開館	1 3 h a [3. 5 h a]	1 1 0 億円	3 0 億円	平成6年度: 31万人
東京ディズニーランド 1983. 4. 15開館	8 3 h a (施設敷地: 46 h a)	1 5 0 0 億円	1 1 0 億円 (6年度販売管理費)	平成6年度: 1600万人
海 遊 館 1990. 7. 20開館	2 h a [3 h a]	2 8 5 億円	8 2 億円	開館1年間: 500万人
アジア太平洋 トレードセンター 1994. 4. 14開館	7 h a [3 4 h a]	1 5 0 0 億円	——	開館1年間: 1千万人
ユニバーサル スタジオ [構想] 2001年春開業予定	5 4 h a (施設敷地: 39 h a)	1 6 0 0 億円	——	

「JAPAN MUSEUM」のテーマと関連をもつ博物館

◎研究機能をもつもの

名 称	所在地	特 徴 等
国立民族学博物館	万博公園	大学共同利用機関の1つ。諸民族の生活、風習や文化を地域別に展示
国立歴史民俗博物館	千葉県佐倉市	1983年に開館した日本唯一の国立の歴史博物館。原始・古代から近世までを順に展示
奈良国立文化財研究所 飛鳥資料館	近鉄 橿原神宮前	飛鳥地域の出土品等を中心に展示
奈良国立文化財研究所 平城京跡資料館	近鉄西大寺	平城宮出土遺物を大量に収蔵。奈良時代の宮廷生活を復元展示
奈良県立橿原考古学 研究所附属博物館	近鉄 畝傍御陵前	考古学専門の唯一の博物館で発掘調査と展示を一体化。奈良・飛鳥時代の資料公開

◎特に研究機能をもたないもの

名 称	所在地	特 徴 等
東京国立博物館	上野公園	日本を中心に広く東洋諸地域の美術・考古遺物を収蔵
京都国立博物館	京阪七条	日本の考古遺物と古美術中心。社寺からの寄託品多数。平安美術が中心
奈良国立博物館	近鉄奈良	全国古社寺の協力を得て文化財を収集、保管、展示。仏教美術が中心
京都府立総合資料館	地下鉄北山	京都の文化歴史に関する各分野の資料を収集・展示
京都市考古資料館	地下鉄今出川	市内埋蔵文化財の保護、調査、研究を目的に設立
京都市歴史資料館	地下鉄丸太町	1200年に及ぶ京都の歴史に関する資料を収集・展示
京都文化博物館	地下鉄御池	京都の文化と歴史をわかりやすく紹介
大阪府立弥生文化博物館	信太山	日本初の弥生文化に関する総合博物館
大阪府立近つ飛鳥博物館	近鉄富田林	古墳文化、飛鳥文化の専門博物館
大阪市立博物館	大阪城公園	歴史、考古、美術工芸、民俗・芸能等の分野から大阪の歴史・文化を紹介

関西で計画・構想段階の文化施設一覧

名 称	所 在 地	具 体 的 内 容
国立国会図書館関西館	学研都市	総合的な情報処理センター及び対図書館協力センターとしての機能などを果たす
国立総合芸術センター	学研都市	新しい文化を創造し発信するための世界で唯一の規模と集積を誇る中核的施設
国立産業技術史博物館	万博公園	産業技術の発展の歴史の研究
上方演芸資料館 (大阪府)	難波千日前	上方演芸に関する資料等の保存、新しい上方演芸の創造と発展を図る
現代芸術文化センター (大阪府)	大阪球場付近	世界に向けた芸術文化情報を発信する中核的芸術文化施設
考古資料センター (大阪市)	NHK大阪放送局周辺	難波宮を中心に宮殿建物の復元、古代宮殿内の儀式の研究、復元等、歴史公園に
大阪市立近代美術館	阪大医学部跡 (中之島)	近代・現代のすぐれた美術品の収集展示、調査研究の推進
舞台芸術総合センター (大阪市)	阪大医学部跡 (中之島)	新しい舞台芸術の創造など世界の舞台芸術の発展に貢献する文化発信基地
海洋博物館 (大阪市)	大阪南港	「大阪の海の交流史」をテーマに船や港に対する理解を深めてもらう
商業博物館（仮称） (大商)	旧東区役所	大阪を中心に商業に関する思想、慣習、制度、文化の形成を歴史的に展示する
20世紀博物館群 (神戸市)	国営明石海峡公園	20世紀の輝かしい科学技術や文化の足跡を振り返り次の時代に継承する
神戸ファッション美術館	神戸市東灘区	ファッションをテーマとした芸術、文化の提供を行う新しいアートミュージアム
県立琵琶湖博物館	草津市	「湖と人間」をテーマに、全国、世界の湖沼を視野に入れた博物館

平成５・６・７年度 世界都市委員会活動状況

平成５年

- ６月１６日 スタッフ会
 「本年度の活動方針について」
- ６月２１日 正副委員長会議
 「本年度の活動方針について」
- ７月　６日 講演会
 「世界都市“関西”と文化創造」
講　師　建築家　安　藤　忠　雄　氏
- ８月２６日 スタッフ会
 「今後の活動の具体的進め方について」
- ９月２７日 講演会・懇談会（首都機能移転に関する懇談会と共催）
 「２１世紀　日本の首都のあり方を考える」
講　師　兵庫県立姫路短期大学　学長　小　森　星　児　氏
- １０月　６日 スタッフ会
 「今後の活動の具体的進め方について」
- １０月２０日 スタッフ会
 「大阪コレクションについて」
- １１月　４日 スタッフ会
 「ロイヤルホテルのまちづくりへのかかわり、阪急電鉄の茶屋町開発について」
- １１月１０日 講演会・懇談会（関西空港委員会、首都機能移転に関する懇談会と共催）
 「２１世紀における関西国際空港のビジョンと世界都市“関西”」
講　師　評論家　堺　屋　太　一　氏
- １１月１２日 スタッフヒアリング
 ○訪問先：（財）竹中大工道具館　館長　天　道　一　氏
- １１月１７日 スタッフヒアリング
 ○訪問先：ＵＣＣコーヒー博物館　館長　諸　岡　博　熊　氏

- 11月19日 大阪コレクション見学会
デザイナー：菅井英子氏
- 11月24日 スタッフヒアリング
○訪問先：大阪府生活文化部、教育委員会および企画調整部
- 11月26日 スタッフヒアリング
○訪問先：大阪府立弥生文化博物館 副館長 吉房康幸氏
- 12月 1日 スタッフ会
「これまでのスタッフヒアリングの報告および自由討議」
- 12月 9日 正副委員長会議
「世界都市『関西』の実現と新しい文化創造の方策」
ゲスト 国立民族学博物館 顧問 梅棹忠夫氏
(於：オオサカサンパレス)
- 12月22日 大阪府の都市開発と文化拠点づくりに関するセミナー
ゲスト ○大阪府生活文化部文化課
現代芸術文化センター設立準備室長 森岡信彦氏
○大阪府教育委員会
博物館建設準備室長 田中宏氏
○大阪府企業局りんくうタウン振興課
りんくう企画開発室長 正木裕氏
○大阪府企画調整部企画室
プロジェクト推進チーム参事 中川達哉氏

平成6年

- 1月24日 講演会・常任委員会
「関西から世界へのファッション情報の発信を目指して」
講師 デザイナー 菅井英子氏

- 2月28日 スタッフヒアリング
○訪問先：大阪市立博物館 館長 森口隆次氏
主査 宮本昌男氏
主任学芸員 前田洋子氏

- 3月15日 スタッフヒアリング
 ○訪問先：(財)大阪科学振興協会
 常務理事・事務局長 江 村 俊 一 氏
 大阪市立科学館 総務課長 米 坂 和 芳 氏
- 5月18日 東京都立江戸東京博物館視察
 講 師 (財)江戸東京歴史財団 副理事長 坂 本 光 一 氏
 東京都立江戸東京博物館 専門参与 小 木 新 造 氏
 事務局長 清 水 一 彦 氏
 参 事 吉 田 孝 之 氏
- 6月10日 スタッフ会
 「本年度活動方針について」
- 6月17日 正副委員長会議
 「本年度活動方針について」
- 7月28日 アジア太平洋トレードセンター見学会
 「関西から新しい流通ビジネスを創造する『アジア太平洋トレードセンター』」
 講 師 アジア太平洋トレードセンター(株) 社長 井 筒 邦 雄 氏
- 9月13日 講演会
 「ファッションを産業としてだけでなく、文化として捉える時代
 ークリエイターを創出する関西を目指してー」
 講 師 デザイナー コシノ ヒロコ 氏
- 9月27日 大阪府立近つ飛鳥博物館見学会
 「可能性を求めて」
 講 師 建築家 安 藤 忠 雄 氏
- 11月 2日 講演会・懇談会（首都機能移転に関する懇談会と共催）
 「首都機能移転その意義と効果 ー新首都時代の個性的な都市像を求めてー」
 講 師 帝京技術科学大学 学長 八十島 義之助 氏
- 11月18日 大阪コレクション見学会
 デザイナー：コシノ ヒロコ 氏

11月25日 講演会・常任委員会
「文化創造拠点としての博物館はどうあるべきか
－情報を展示する“博情館”構想－」
講 師 国立民族学博物館 教授 栗 田 靖 之 氏

平成7年

1月 9日 スタッフ会
「提言のとりまとめに向けての討議」

6月19日 正副委員長会議
「本年度の活動方針について」

7月29日 宝塚歌劇観劇会
ミュージカル『エデンの東』
ロマチック・レビュー『ダンディズム』
○講演会
「宝塚歌劇80年の歩みとこれから」
講師 宝塚歌劇団 理事・演出家 岡 田 敬 二 氏
○懇親懇談会

10月13日 スタッフ会
「提言骨子(案)についての討議」

10月20日 正副委員長会議
「提言骨子(案)についての討議」

10月25日 常任委員会
「提言骨子(案)についての討議」

11月 6日 常任委員会
「提言(案)についての討議」

11月14日	常任幹事会・幹事会にて提言(案)「～人間性豊かな世界都市関西の実現に向けて～ 『JAPAN MUSEUM(仮称)』の創設」を審議
--------	--

12月26日	提言「～人間性豊かな世界都市関西の実現に向けて～『JAPAN MUSEUM(仮称)』の創設」を記者発表
--------	---

以 上

平成7年度 世界都市委員会常任委員会名簿

(敬称略・順不同)

委員長	南 谷 昌二郎	西 日 本 旅 客 鉄 道	副 社 長
副委員長	大 辻 眞喜夫	竹 中 工 務 店	専 務
"	松 原 徳 一	阪 急 電 鉄	専 務
"	コシノ ヒロコ	ヒロコ・コシノ デザインオフィス	代表取締役
"	湯 浅 叡 子	千 里 文 化 財 団	専 務 理 事
"	小 松 健 男	銀 泉	会 長
"	篠 崎 由紀子	都 市 生 活 研 究 所	社 長
"	菅 井 英 子	デコ・ジャパン	代表取締役
"	中 村 俊 雄	長 谷 工 都 市 開 発	社 長
"	清 水 貞 行	メ ル ボ 紳 士 服	社 長
"	田 辺 剛	清 水 建 設	専 務 関 西 総 括
常任委員	安 藤 忠 雄	安藤忠雄建築研究所	代表取締役
	井 尻 勇	三 井 物 産	取 締 役 関 西 副 支 社 長
	井 筒 邦 雄	大 阪 ガ ス	顧 問
	井 上 尚 男	住 友 金 属 工 業	取 締 役
	大 原 詔 久	テ レ ビ 大 阪	編 成 局 長
	岡 裕 子	センチュリークラブ	副 総 支 配 人
	岡 本 行 善	昭 和 設 計	社 長
	小 川 芳 邦	近畿日本ツーリスト	取 締 役 関 西 営 業 本 部 長
	笠 原 隆之助	カ サ ハ ラ 画 廊	代表取締役
	片 山 恂	大 広	社 長
	金 井 萬 造	地 域 計 画 建 築 研 究 所	社 長
	桐 山 輝 彦	神 戸 屋	会 長
	金 馬 昭 郎	京 阪 電 気 鉄 道	社 長
	澤 一 寛	日本カラーテクノロジー研究所	社 長
	竹 村 楊 子	A D & A	代表取締役
	手 塚 昌 利	阪 神 電 気 鉄 道	社 長
	寺 田 和 之	テ ザ ッ ク	社 長
	徳 岡 昌 克	徳岡昌克建築設計事務所	代表取締役

仁 泉 節 子
西 川 正 敏
藤 井 潔
松 井 昭
吉 田 正 行
吉 野 国 夫
渡 邊 八 郎

日 本 テ レ ビ 放 送 網
日 本 生 命 保 険
高 島 屋
南 海 電 気 鉄 道
け い は ん な
ダ ン 計 画 研 究 所
サ ン ト リ ー

関西支社副参事
企画広報部長
専 務
専 務
専 務
社 長
監 査 役

土 屋 隆 一 郎
百 田 和 之
蔵 原 潮
橋 本 健 一
松 田 研
西 山 純 一
宇 治 日 出 二 郎
豊 島 順 也
多 田 三 信
道 幸 博 史
森 口 勉

西 日 本 旅 客 鉄 道
西 日 本 旅 客 鉄 道
西 日 本 旅 客 鉄 道
竹 中 工 務 店
阪 急 電 鉄
ヒ ロ コ ン ・ コ シ ノ
デ ザ イン オ フ ィ ス
千 里 文 化 財 団
デ コ ・ ジ ャ パ ン
長 谷 工 総 合 研 究 所
メ ル ボ 紳 士 服
清 水 建 設

経営企画部
調 査 室 長
経営企画部
課 長
経営企画部
大阪湾ベイエリア
プロジェクト
推進チーム次長
秘書室秘書役
顧 問
常 務 理 事
取締役・統括部長
大阪支社市場調査室
取 締 役
総務本部長
大阪支店企画部長

事 務 局

萩 尾 千 里
梅 名 義 昭
金 子 秀 一

関 西 経 済 同 友 会
関 西 経 済 同 友 会
関 西 経 済 同 友 会

常 任 幹 事
事 務 局 長
企画調査課長
企画調査課

「J A P A N M U S E U M(仮称)」の創設
～人間性豊かな世界都市関西の実現に向けて～

1995年12月発行

発行者 社団法人 関西経済同友会

常任幹事 萩 尾 千 里
事務局長

大阪市北区中之島6-2-27

電話 (06)441-1031

印刷所 大信美術印刷株式会社

〒531 大阪市北区中津6丁目13-20
